（様式６－１）

実績概要（ホームページ掲載用）

研究又は活動のテーマ	谷山緑地再生計画(グリントプロジェクト) ～公園機能と魅力の向上を目的とした調査および提案～
助成事業者	鹿児島大学大学院 理工学研究科
代表者	増留 麻紀子

（目的）

鹿児島県谷山緑地の再生化の一助とするため、日本国内にある、線形状を活かした緑地及び緑を活用した建築による地域づくり、まちづくり、地産地消(地域経済活性)に寄与する調査研究と活動を地方自治体と連携し実施する。

（概要）

地方都市における線形緑地の事例調査として、草津川跡地公園（草津市）及び広瀬川河畔緑地（前橋市）の現地調査を実施し、また、緑を活用し人々が集まる施設として成功している、ラ コリーナ近江八幡、太田市美術館・図書館（太田市）、緑とアートを用いた改修により付加価値を上げた白井屋ホテル、アートによる街の活性化を目的としたまえばしガレリア及びアーツ前橋（前橋市）の現地調査も併せて実施した。

草津川跡地公園の調査から、緑地運営には、運営事業体にデザインコントロールを行える人材や経営者としての資質を持つ人材が必要であり、基本方針、基本設計から発注・施工、管理運営に至るまで、コンセプトを通底させるための意識改革が重要である。これらの意識改革は利用者である市民、事業主体である行政、実行者である事業者の3者共に必要と考える。広瀬川河畔緑地の調査から、周辺との連続性には、緑地、施設、周辺道路などの領域は存在するが、床仕上げの統一や縁石の除去、外部利用家具の設置など、境界を感じさせない一体感のある空間作りが有効である。また、アートを利用したコンテンツや空間作りにより、施設への誘引力形成に繋がることが確認でき、楽歩堂前橋公園の調査からは、歴史的建築物や庭園といった属性の強い空間は周辺との一体化よりも閉鎖による雰囲気作りが有効であることが確認できた。

緑やアートを活用した施設の調査では、形態デザインにおいて、境界を曖昧とする手法が緑地と同様に有効であり、他とは異なったユニークなデザインが魅力ある空間を作り出し、集客力ある施設にすることが確認できた。コスト、時間、手間は掛かってしまうが、その場所に合ったユニークなデザインを考え、オリジナリティのある空間とすることが魅力を作り出し、集客力へと繋がり、利用者に親しまれる空間になると考えられる。このためには発注を行う行政の努力が必要不可欠である。今後、谷山緑地再生計画を推進する上で、周辺との関わり方、緑の活用方法、アートの導入といった見地からも再生を検討されるべきである。また、4kmに亘る長さをいかにメリットとするかは難しいが、地域活性化のためにも進めていくべき課題である。